



地域日本語支援ニュース こだま 第 236 号

2013.6.27



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

===== 目次 =====

1■日本語教育メール相談から—24■

日本語力のステップアップのための学習法

2■進学進路ガイダンス情報■

高校進学説明会情報(7月・8月)

3■AJALT からのお知らせ■

AJALT の著作教材を活用した

2013 年度 日本語教師のための夏の教え方講習会のお知らせ

=====

1■日本語教育メール相談から—24■

日本語力のステップアップのための学習法

AJALT では、各地域において在住外国人にたいする日本語支援を行っている方々からの日本語支援に関するご相談をメールで受け付けています。教室運営や対象別指導法、日本語文法など、皆様の日々の活動における疑問に、AJALT のベテラン教師が丁寧にお答えいたします。今回は、最近頂いたご相談の中から、下記のご相談と回答をご紹介します。皆様もどうぞ、お気軽にメール相談をご利用下さい。
☆☆☆☆☆☆☆☆

<ご相談内容>

夜間中学、その後定時制高校を卒業し、造船関係の会社で仕事をしてきた都

内在住のタイ人成人です。日本語はとても上手ですが、不況で仕事を辞め時間ができたので日本語のまだ不自由な部分を勉強したいと言っています。将来日本とタイを行き来し日本語を活かした仕事をしたいそうです。どのような勉強をすればいいとアドバイスしたらいいのでしょうか。

<回答>

◆日本語力のステップアップのための学習法◆

この方は、夜間中学を卒業されたということですから、おそらくある程度日本語の読み書きをしっかりと学習し、話す・聞くについては生活上は困らない程度、という方ではないかと推察いたします。

「日本語の不自由な部分を今のうちに勉強したい」という「不自由な部分」についてですが、これはおそらく、“読み書き”のブラッシュアップ、それに加えて、できれば“話す”力についても相手に応じた使い分け（たとえばビジネス日本語、敬語等）ができるようになりたい、といったご希望ではないかと想像して、以下書き進めてまいります。

○日本語能力試験受験を目標に据える

まずはご自身でも目に見える目標を持つことが大事だと思いますので、この方も日本語能力試験を受けることを一つの目標にしたらいかがでしょう。夜間中学を卒業されて、お仕事もして、日常会話には困らないという程度の日本語力であれば、N4 レベル（旧 3 級…初級終了程度）、あるいはもう少し上の N3 レベルあたりから受験することをおすすめします。（詳しくは「こだま 234 号」掲載日本語能力試験の学習法、参照）。仕事でステップアップする場合、履歴書に書くとよいのは N2 レベル以上です。ただし N3 レベルを取得したのであれば、「N2 レベル習得のために現在学習中」と書き添えてもよいと思います。N2 レベルを取得していればある程度の日本語力があるとみなされます。

○ボランティアの教室、あるいは日本語学校の短期コースに通う

地域のボランティア教室に通い、先生とご相談の上、テキストを決める、あるいは生教材（新聞や雑誌等）を読む学習を一緒にするなど、自分のニーズに合った学習を一緒にしてもらうのがよいでしょう。中級以上の方はできればグループ指導ではなく、個人指導をしてくれる教室で、先生とご相談して自分の目標をしっかり定めて学習するとよいと思います。

民間の日本語学校には、短期、夜間、週末のクラス、特別の目的に特化した

ビジネスコース、日本語能力試験対策コースなどもあります。これらはいわゆる長期間の学期制のクラスと比べると、学習時間が少ないため安価ですし、入学金を取らないことが多いようです。各学校の情報はインターネット上で調べられるので、自分に合った希望のコースを探してみるとよいでしょう。ほとんどの学校で事前の見学を受け付けていますし、案内書を郵送してくれます。

○インターネット上の日本語学習サイトを活用する

インターネット上で日本語を勉強できるサイトがたくさんあります。ここでは2つご紹介します。

- ・NIHONGO e na

<https://nihongo-e-na.com/eng/>

日本語を勉強する人に役立つサイトやツール、アイデアを紹介しています。読む、書く、聞く、話す、文法、語彙、かな、漢字、ツール、辞書・翻訳、文化・社会、その他のカテゴリー別に、サイトやツール、アイデアを探すことができます。自分に合ったサイトを見つけて学習できるので、おすすめです。

- ・AJALT（公益社団法人国際日本語普及協会）

<https://www.ajalt.org/online/>

オンライン教材の中の「漢字で学ぶ日本語」はおすすめです。

日本語能力試験対策に関しては「JLPT 日本語能力試験」ホームページに情報がたくさんあります。また「日本語能力試験 学習サイト」で検索すると、旧試験対策のサイトなども出てきます。新試験の問題のスタイルは、旧試験とあまり変わっていないので活用できます。

「JLPT 日本語能力試験」

<https://www.jlpt.jp/about/index.html>

○日本語に積極的に触れる/使ってみる

最後に申し上げたいのは、当たり前のようなことなのですが、学習者自身が積極的に普段から身の回りの日本語に触れること、日本語を使ってみる機会を持つということです。

まずおすすめしたいのはテレビです。ニュースでもドラマでも、またお笑い番組でも自分が好きなものから見てみましょう。ニュースやドラマ、お笑い番組ではそれぞれ話し方が違います。スピーチレベルの違いを学んだり、会話のいろいろな表現を学んだりできるのもテレビの良いところです。全部わからなくても BGM のように日本語を聞き流し、耳慣れていくとよいと思います。最近は音声は文字になってテレビ画面の下の方に出ているものも増えましたの

で、音と文字を結び付けて確認もできます。

また、駅や街角などいたるところで、きれいな写真、イラスト、地図付きのフリーペーパーやチラシが手に入ります。学習者は、「どうせ読めないよ」と言って意外と見過ごしているものですが、初級終了程度の学習者でも十分読める素材はありますし、何ととっても無料の読解素材というのは魅力です。また、日本人の友達や同僚と話をするときの話のたねにもなりますし、文化的なことも学べます。辞書を使って、わからないことを調べてもよいですし、わからないところはそのまま読み飛ばしてもよいでしょう。電車の中の吊り広告を見ながら、電子辞書を片手に漢字学習を楽しんでいる学習者もいます。

初級者はある程度日本語学習を積み重ねると、片言のサバイバル日本語を扱えるようになります。周りとも多少のコミュニケーションが取れるようになると、自分も支援者も「力がついた！」という手ごたえを感じるものです。一方で、中級以上の学習者は、なかなか自分の力の伸びを感じられないようです。「本当に自分の日本語は上達しているのだろうか」と悩むことが多いように思います。学習を地道に続けていれば必ず、少しずつ語彙力がついた、発音が良くなった、使える表現が増えた、などの上達があるものですが、学習者自身には最初の初級のころと比べると、明確な日本語の伸びが感じにくいのでしょうか。支援する側の方は、ぜひ何かちょっとでも良いですから、学習者の上達した点、日本語の良いところ見つけてほめて、学習を継続できるように背中を押してあげていただければと思います。

(AJALT 所属日本語教師 山本さやか)
